

はじめに

思いがけない事態は突然訪れるもので、周知のとおり2019年12月上旬に中国の武漢市で第1例目の新型コロナウイルス感染者が報告され、数カ月のあいだに世界に拡散（パ
ンデミック化）された。2022年2月にはロシアによるウクライナ侵攻が勃発し、
この世界を覆った2つの暗雲が、いつ完全に晴れるのか断言できる者はいない。

とりわけ、ロシア・ウクライナ戦争による影響は甚大で、小麦の値上がりをはじめ、
多くの人たちが物価高に悩まされている。日本の場合は賃金が上がらないままである
から、なおさら閉塞感が強く、なかなか景気の先行きに希望が持てない状況だ。

さらに、これに追い打ちをかけるようにFRB（連邦準備制度理事会）が、202
2年4回目となる0・75%の大幅利上げを11月2日に行った。急激に円安が進行し、
経済状況が悪化の一途をたどっている。

こうした状況では、多くの株式投資家がどのようなセクター、銘柄に目を向けるべきか、悩んでいることだろうし、株式投資に代表される、リスク資産の運用は難しいと言える。

しかし、これまでも幾度となく不況の波に晒されてきたものの、永遠に景気悪化が続くわけではない。「休むも相場」という格言があるが、一般投資家といえども手をこまねいてばかりいては、正直つまらないはずだ。

私のライフワークとしている「会社四季報（以下、四季報）」読破は、2022年の秋号でついに100冊に達した。多くの方から讃辭をいただき光栄に思っている。そして、秋号を読み終わって気づいたことは、ずっと低迷していて上にも下にも行かず、何かのきっかけがあれば上昇しそうな株が結構多いことだ。

現況の厳しさもさることながら、特にこの数年間はストックピッカー（銘柄選取者）にとって辛い期間だったと思う。とはいえ、どんなに弱い下げ相場でも上がる株はあるわけで、だからこそ勉強する価値があるし、逆にストックピッカーが活躍する時代

が隠れたというのが、私の認識だ。

確かに現在、リスク資産の運用は難しい。ただし投資テーマがないわけではない。たとえば、尾元のウクライナ情勢や円安の状況を鑑みると防衛関連やインバウンド関連などがある。

また、株式市場の動きに目を向けると、順張り（株価のトレンドに乗って株を買ったり売ったりすること）でスムーズに上がっている株とずっと低迷している株で二極化している。したがって、マクロ的な背景に関係なく銘柄選択をしなくてはならない状況だと言える。

つまり、より賢い投資を心掛ける必要があるわけで、早い時期こそポジティブな思考と冷静な判断が求められる。言い古されたことだが、マスコミの発表に一言一憂することなく、また、他人の意見に惑わされて付和雷同することなく、客観的にマクロ・ミクロの視点から情報を分析して、自分の投資スタンスを磐石にすることが肝要になる。

私が主宰している投資アカデミー・複眼経済塾では、優良企業やセクター、投資テーマを見つけるために「四季報の読破」「日本経済新聞（以下、日経新聞）の切り抜き」、そして日頃の株式指標や出来事を「指標ノート」に書き留めるようにしており、この3つを「投資の三種の神器」と呼んでいる。

私は「三種の神器」を実践して有望な企業を見出し、自分が応援したい企業を見つける自分の夢を託すのが本来の株式投資の在り方だと思っている。それが株主になることの意味であり、結果、株主総会で議決権を持つことになる。なので、「ナスダックを買っておけばよい」という風潮や、両面上で売買を繰り返すゲーム的な投資スタンスとは訳が違う。

私たちは、四季報と日経新聞（必要に応じて東京新聞も）以外に特別なツールを用いることはなく、塾生の皆さんと共に日々研鑽を積んでいる。

今回、すでに刊行されている四季報と日経新聞の読み解き方などの拙書に加えて、

各方面から「指標ノート」の作り方のノウハウを知りたいとの要望を受けて本書を刊行することになった。

今後しばらくはインデックス（市場の動きを表す指数）に連動する投資よりも、優良銘柄を見出すための「三種の神器」の手法が活きる時代になるはずだ。

本書を通じて投資の魅力を知り、少しでも読者の皆さんの成果につながれば、筆者としてこれ以上の喜びはない。

渡部清二